

作新学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

所属	氏名	作成日
経営学部経営学科	趙 美慧	2024年 5 月 1 日

【責務】(何をおこなっているのか/担当授業科目その他)

【経営学部】

◆前期

基礎ゼミナール 1h
 研究ゼミナール 1
 研究ゼミナール 3
 研究ゼミナール 5
 フィールドワーク A
 ビジネスイングリッシュA(経営学科)
 ビジネスイングリッシュA(スポーツマネジメント学科)
 コンピューターリテラシー I (経営学科)
 コンピューターリテラシー I (スポーツマネジメント学科)
 研究指導

◆後期

基礎ゼミナール 2h
 研究ゼミナール 2
 研究ゼミナール 4
 研究ゼミナール 6
 コンピューターリテラシー II (経営学科)
 コンピューターリテラシー II (スポーツマネジメント学科)
 コンピューターリテラシー II (人間文化学部発達教育学科)
 コンピューターリテラシー II (人間文化学部心理コミュニケーション学科)
 経営学総論 B*(2回分を担当)
 流通論
 研究指導

【経営学研究科】

<博士前期課程>
 経営学特別演習 I
 経営学特別演習 II
 流通システム特論

【理念】(どのような考えに基づいて行っているか)

私の教育活動の理念は、学生が社会に出た際に即戦力として活躍できるよう、理論的知識と実践的スキルの両方をバランスよく身につけることを目指すものです。特に、企業経営戦略、流通とサプライチェーンマネジメントの分野においては、変化の激しいビジネス環境に柔軟に対応できる力が求められます。そのため、学生には、問題解決能力や批判的思考を育むことを重視し、実際のビジネス課題に対処できる力を養うことを教育の中心に据えています。

さらに、私は学生が理論と実務を結びつけ、自らの価値判断を通じて意思決定できるよう支援しています。これは、現代のグローバル経済において、倫理的かつ持続可能なビジネスのあり方がますます重要になっているためです。正確な価値判断と責任あるリーダーシップを持ったビジネスパーソンの育成が、私の教育活動の根幹にあります。

この理念の実現に向けて、学生が自主的に学び、成長するためのサポートを惜しまず、実践的な教育手法を取り入れ、彼らの将来に向けた確かな基盤を築くことを常に心がけています。

【方法】(その考えをどうやって実現しているか)

実践能力を育むために、研究ゼミナールでは臨地研究を取り入れ、学生が実際の企業や現場での調査やインタビューを行う機会を提供しています。これにより、学生はリアルなビジネスの流れや問題に直面し、課題解決の手法を実践的に学びます。さらに、グループワークやケーススタディを用いて、実際の企業戦略やサプライチェーンにおける問題を分析し、解決策を提案するプロジェクト型学習を実施しています。これらの方法により、学生はただ知識を学ぶだけでなく、それを現場でどのように適用するかを体験しながら学びます。

また、価値判断を育むために、ビジネス倫理やサステナビリティに関連する課題をディスカッション形式で取り上げ、学生が多様な視点から問題を評価できるよう指導しています。

【成果】(その方法を行った結果、どうなったか、どうだったか。自身の感想・具体的な成果物・学生からのコメントなど)

臨地研究や実践的なプロジェクトを通じて、学生が自らの学びを深め、実社会で役立つスキルを身につけるという具体的な成果を確認できました。例えば、研究ゼミナールにおいて、学生が地域企業の課題を調査し、現場でのインタビューやデータ収集を行い、その結果を基に提案を行いました。これにより、学生が企業の担当者と直接対話することで、理論と実務の違いや現場での具体的な課題に対する理解を深めることができました。

また、実際に提出された成果物として、学生の研究報告書やプレゼンテーションが挙げられます。特に、ある学生グループは、臨地調査での調査結果により問題点とその対策に関する研究をまとめて発表した。この発表に対しては、企業からもフィードバックがあり、実務への応用可能性について前向きなコメントをいただきました。

自身の感想としては、学生が現場での体験を通して、自らの成長を実感している様子を見られたことは大き

な成果だと感じています。臨地研究の場で学生が積極的に質問をし、自らの考えを発信する姿勢は、彼らの学習意欲や問題解決能力の向上を実感させるものでした。学生のコメントとしても、「企業の現場で実際の問題に触れたことで、授業で学んだ理論がどのように役立つのかを実感できた」や「自分の提案が企業に評価され、自信につながった」といったポジティブな声が多く聞かれました。

今後も、こうした実践的な学習を通じて、学生が自らの学びを社会に還元し、将来のキャリアに活かせる機会を提供していきたいと考えています。

【目標】(今後どうするか)

今後の目標として、より多くの学生が実践的な能力を身につけられるよう、臨地研究や企業との連携をさらに強化したいと考えています。具体的には、年間で少なくとも 2 つの企業(組織)と提携し、学生がそれらの企業の経営や戦略に関する課題に取り組む機会を提供することを目指します。また、学生の学習成果を発表する場を増やし、学内外での発表機会を年 2 回設けることで、プレゼンテーションスキルや論理的思考力を育成することも重要な目標です。

また、教育の質を向上させるため、学生一人ひとりの進捗や理解度をよりきめ細かく把握し、フ